

三重県知事 鈴木英敬 様

2021年8月5日

県民本位のやさしい三重県政をつくる会

三重とこわか国体・三重とこわか大会の中止を求める申し入れ

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、新たな変異種も誕生し、いまだ終息の兆しを見せていません。

新型コロナ感染者を把握するためのPCR検査は、一部社会的検査が実施されるようになりましたが、諸外国にくらべても全体を把握する水準にはほど遠く、無症状感染者を把握しきれいていません。

そのために医療・介護・福祉はもちろん会社などでも繰り返しクラスターが発生し、自宅待機中の家族間での感染拡大も深刻です。

ワクチン接種も、2回目接種で、全県民の3割程度にすぎず、若い世代での感染も拡大しており、いまだ集団免疫を実現しているとは言えません。

また、ワクチンも万能ではなく、重症化は防ぐとしても感染を完全に抑えるものとはいえず、変異株の出現で有効性が低下するおそれもあります。

そうしたなかで、全国的には第5波の拡大のなか緊急事態宣言が1都1府4県（～8月31日）、まん延防止等重点措置が1道1府3県（8月2日～31日）に発出されている状況です。加藤官房長官は、2回のワクチン接種を終えた人も都道府県を越えた移動をできるだけ避けるよう協力を呼びかけています。

こうした中で、全国から選手・関係者が集まり、感染の拡大リスクを高めるイベントを開催することは、選手・関係者はもちろん、県民のいのちと健康を危険にさらすものといわなければなりません。病床使用率もすでに30%を超えています。

オリンピックでもバブル方式のほころびが現れ、8月2日時点で276人の関係者での感染が広がっています。万全の対策はありません。

新型コロナ対策は、いのちと暮らしを守り、安全・安心な状況をつくることを最優先し、自粛要請にはしっかりした補償を、医療提供体制の充実、検査体制・ワクチン・治療充実を求めます。そのうえでこそ国体の趣旨にそった「広く国民の間にスポーツを普及し、健康増進と体力の向上を図り、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与する」大会となります。

人類史的危機ともいえる新型コロナウイルスパンデミックのなかで、安全・安心の三重県とするために「三重とこわか国体・三重とこわか大会」中止することを強く要請します。

以上